

食品ロスの削減とフードバンク支援 福岡県フードバンク協議会の取組



一般社団法人福岡県フードバンク協議会
事務局長 向居秀文

フードバンクの役割

福岡県食品ロス削減推進計画書のトップにフードバンクの活用が記載されています

フードバンクとは品質に問題がないにもかかわらず、市場で流通できなくなった食品を企業や個人から寄贈してもらい、福祉施設や子ども食堂、食べ物が必要な人に無償で配る活動

環境問題

年間で472万トンもの可食・未使用の食品が廃棄されている



入口は食品ロス削減

出口は福祉

フードバンク

貧困問題

- ・子ども
- ・シングルマザー
- ・生活困窮者・・・

現状は7人に1人の子どもが貧困



食品ロス削減と福祉に対して効果的な活動です



福岡県内の フードバンク

- ① フードバンク北九州ライフアゲイン
- ② フードバンクちくほう
- ③ フードバンク飯塚
- ④ ふれあいフードバンク飯塚
- ⑤ ふくおか筑紫フードバンク
- ⑥ フードバンク福岡
- ⑦ フードバンク糸島
- ⑧ フードバンクくるめ
- ⑨ フードバンクありあけ
- ⑩ フードバンクきずな朝倉
- ⑪ くきのうみフードバンク
- ⑫ 福岡県フードバンク協議会

はじまりは福岡県の食品ロス削減推進共同研究プロジェクト

2017年度から、福岡県環境部の外郭団体であるリサイクル総合研究事業化センターを中心に、「フードバンクを活用した食品ロス削減推進の共同研究プロジェクト」が発足して、エフコープ、フードバンク北九州ライフアゲイン、フードバンク福岡で協議を進めていきました。

フードバンク活動は、「食品ロスの削減」をしながら「食品を必要とされる方々の支援」ができる

↓

その一方で、NPO法人や任意団体が非営利で行っているため資金力や人手が乏しく、また世間の認知度や理解度が十分でないため運営に苦勞しており継続性に不安がある

↓

多くのフードバンク団体が活動しはじめた福岡県においては既存のフードバンクを支援する団体の設立と仕組みが必要(企業から見ても問合せ先の分かり易さが必要)

福岡県ではフードバンク協議会の設立して福岡県内のフードバンク活動を応援しています

県単位での
中間支援組
織設立は全
国初

フードバンク活動は非営利の活動ですから周囲が支えていくことが大切です。福岡県フードバンク協議会は福岡県の支援を受けて、エフコープ、JAふくれんという協同組合を中心に2019年よりフードバンク団体と企業の間で食品寄贈の窓口と取りまとめやフードバンク活動に協力してくれる企業の新規開拓をします。

企業、団体窓口を
協議会に一本化

方針

各フードバンク団体の違い
や個性は尊重して支援

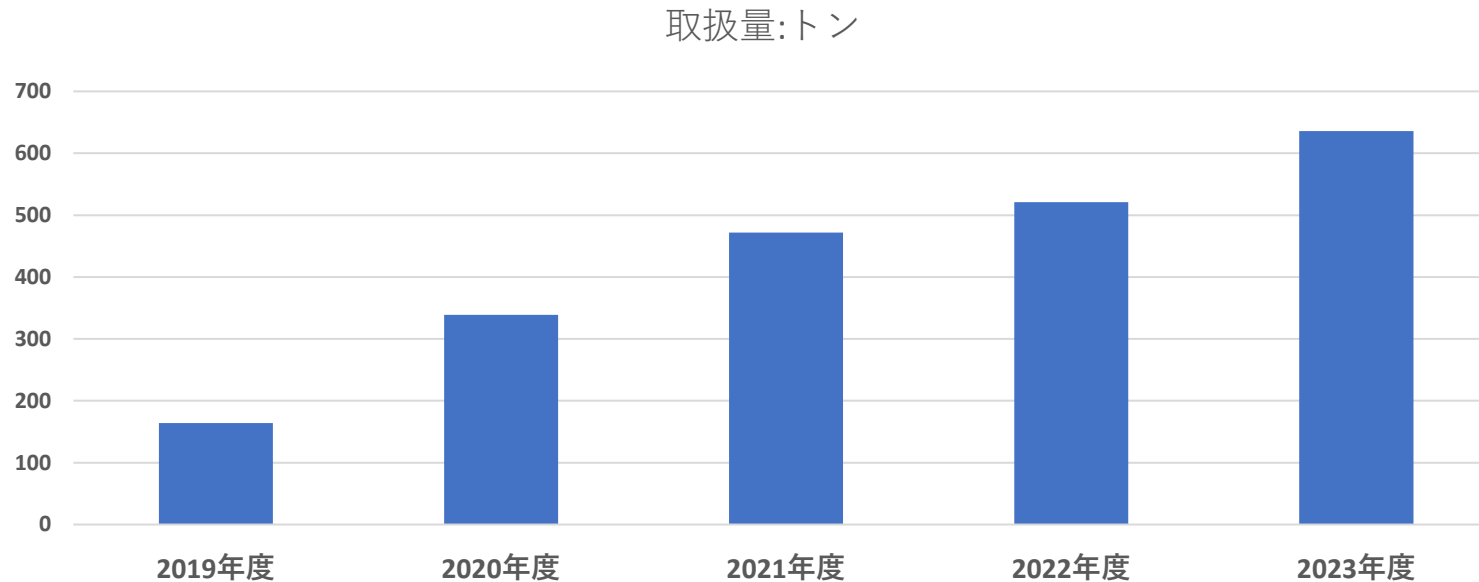
地域で出たフード
ロスを地域の福祉
に活用

フードバンクの認知度向上推進

フードバンク新規設立の手伝い

事務局運営はエフコープ、監事はJAフクレンが担います

県内フードバンクの食品取扱量の推移



2019年度164トン⇒2020年度339トン⇒
2021年度472トン⇒2022年度521トン⇒2023年度636トン

2019年から2023年度の新規開拓企業数は122社

食品ロスとは?

フードバンクで取り扱った食品の一部です

品質に問題がないにもかかわらず、市場で流通できなくなった食品が発生します。理由は様々ですが年間472万トンの食品が廃棄されています。



季節商品の売れ残り



余剰生産



規格外品



箱が汚損 破損

他にも色々な理由で食品ロスは発生



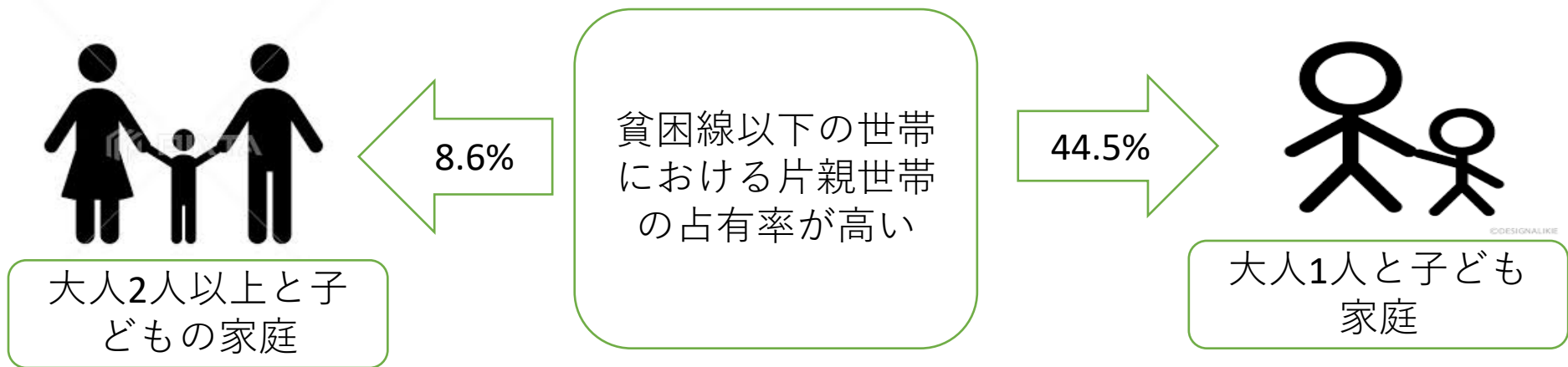
仕様変更

出庫期限



製造不良

相対的貧困と世帯の形



世帯の等価可処分所得の中央値⇒254万円(2022年)の半分⇒127万円⇒貧困線と定義されています

日本の相対的貧困率が高い理由として高齢化社会に加え「ひとり親世帯の増加」が挙げられます。

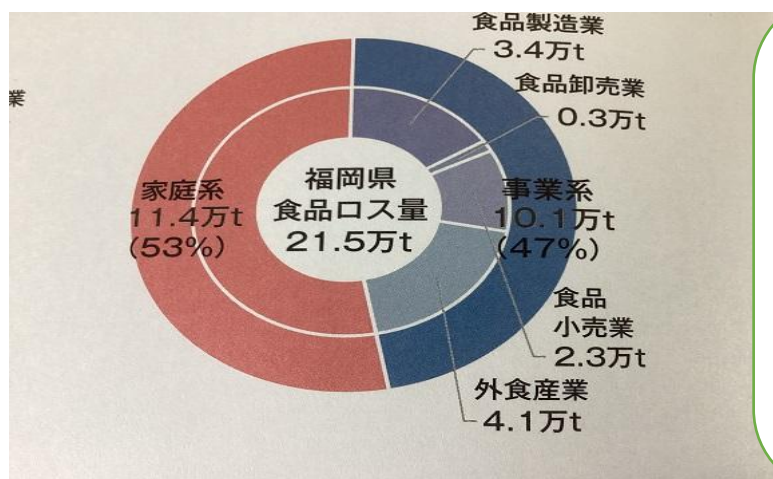
7人に1人の子どもが貧困線以下の世帯とされていますが地域によっては4人に1人が貧困線以下も

※生活保護受給者率は全国平均1.62%ですが福岡県は2.35%です

みんなで出来ること

フードドライブ

家庭で眠っていて、食べない食品を寄付してフードバンク等を通して福祉団体や食べ物が必要な人に提供する活動で誰もが参加しやすい食品ロス削減の取組です。



**福岡県の食品ロス量は
215,000トンと言われて
おり、その内の約53%は
家庭からの排出です。**



街中に食品回収ボックスの設置が増えることで家庭で食べない食品が賞味期間が切れる前に提供する機会となりフードバンクを通して食べ物が必要な方に届けられることで家庭からの食品ロスの削減と福祉への活用につながります。

みんなでやっています

フードパントリーの取組

協力企業エフコープの配送トラックが出発した後のスペースを活用して集めた食品を必要な方に渡す場「フードパントリー」の取組も支援しています。



フードバンクが食品を集め



食品はエフコープ大宰府支所に集めて保管して、みんなで仕分け



参加者が子ども食堂毎に分けて



みんなで積み込み



持ちかえった食品を子分け



子ども達に配布



地域の企業もボランティアとして参加

何かあれば相談を

災害発生時の対応

2022年9月19日の台風では多くの小売店が休業となり製造したパンの行先が無くなり「もったいないから活用してもらえないか」とフランソワ様から連絡が

空き箱返却
は支所より



2024年台風10号
でもパンを提供



各フードバンク団体に連絡して子ども食堂や福祉団体に配布してもらい8,341個のパンが無駄にならずにすみしました。

子どもに届けられ
好評でした



おいし
いね



なかには初
めて菓子パ
ンを食べた
子どももい
ました

ご清聴ありがとうございました

